

# 豊かなまち「おいた」を 未来につなげるために



ラジオパーソナリティー  
荒金由希子



大分市議会議長  
二宮 博



大分市長  
足立信也



九州電力株式会社  
代表取締役社長執行役員  
池辺和弘氏

## 池辺 和弘氏 プロフィール

1958年大分県日田郡上津江村（現・日田市）生まれ。  
県立大分舞鶴高等学校～東京大学法学部卒業。  
1981年に九州電力株式会社に入社し、2018年同社社長に就任。  
2020年からは電気事業連合会会長を務める。

令和4年には、九州電力株式会社大分支店・大分県信用組合と「カーボンニュートラル等に係る包括連携協定」を締結しています。産官学が積極的に連携し、市民の皆さんを巻き込んで全体で取り組みを進めていくことが必要です。まずは「ごみを出さない、再利用可能なものに変えていく。そういう意識の醸成は非常に大事です。」

**池辺** 廃棄物のエネルギー活用は、日本だけでなく世界的にも有望ですね。

**市長** 大分市と臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市の6市共同で一般廃棄物の広域処理を行う「新環境センター」の整備を進めています。清掃工場の余熱を利用した入浴施設やウォーキングプール、啓発施設等を併設し、環境保全についてみんなで考え、学ぶきっかけにしていきたいですね。

## キーワードは「ひと」 トップとしての姿勢

—— 取り組みを進めていく上で、地域の方々や関係者の協力は不可欠です。リーダーとしての姿勢についてお聞かせください。

**池辺** 私が社長に就任して特に力を入れたのは「過去にとらわれない」「皆が個性をもって働ける会社にする」。この思いで改革を進めてきました。皆人の役に立っているという自信はありますが、もっと自由な発想があってもいいと思うんです。そのための取り組みの一

環として、私個人が自由にやってみたいこと等を社内テレビ放送「KAZサイト」で発信することを始めたところ、徐々に社員の皆が自分の考えや発想を表現してくれるようになりました。

組織をフラットにしたい、というのがリーダーとしての思いです。踏襲してきたものを変えるのは難しいですが、まだまだ変えていきたいと思っています。

**議長** 市民と一緒にまちづくりの活動をするのが大切だと考えています。市議会では、毎年、市内13会場で市民意見交換会を開催し、市議会の取り組みの報告や市政へのご意見を聞く場を設けるなど、市民一人ひとりの声を聞き取れることを大事にしています。また国や県、他の市町村と連携を深めていくことも重要だと思っています。



「新環境センター」イメージ図

## 若者が活躍できる 市政の新たな取り組み

—— 最後に、今後の市の取り組みと、期待することについてお聞かせください。

た交流の先にイノベーションも生まれやすくなりますし、若者のやる気を行政や企業が応援する場にもなると考えています。

**池辺** 「自分達が提言したから変わったよね」という小さな成功体験の積み重ねが大切です。「何を言ってもダメ」では余計に関心がなくなってしまうので、そういう仕組みはとても将来性がありますね。

**議長** 若者にもっと市政やまちづくりへ関心を持ってもらう取り組みを進めることが何よりも大事です。

—— 最後に市長、まとめをお願いします。

**市長** 市長として、「決断力」「説明力」「実行力」そして、「夢を語る力」が大事だと思っています。池辺社長には脱炭素を実現する未来への熱い思いを語っていただきました。市としても積極的に取り組みを進めていきたいと思っています。また、議長の「市民一人ひとりの声を大事に」という思いは、私の市政執行の基本姿勢と同じで心強く感じました。お二人の強い思いに刺激を受けましたし、大分市をよりよい市にしていこうと改めて感じました。

「ひとを守る」「ひとを育む」「ひとを支える」「ひとを豊かに」「ひとを元気に」の五つを政策の柱とし、「ひとが真ん中」という基本姿勢のもと、市政運営に全力で取り組んで参ります。

—— 本日はありがとうございました。

**池辺** 一つだけお願いすることがあるとすれば「若い人が働けるような場所」をつくっていただきたいということ。私は電力会社でエネルギーを作るといふ製造業的なマインドが強いかもしれませんが、大分市は製造品出荷額等が九州第1位の「ものづくりのまち」だと思うので、若い人が大分市で働ける環境づくりを、企業誘致等で積極的に進めていただきたいですね。

**市長** 「人口減少社会」という「時代の変わり目」に経済が極めて重要ではありますが、その目的をどこに置くのか。それはやはり「地球にやさしく」「人にやさしく」であるべきです。新しい産業もイノベーションも、未来の人と地球を中心とした観点で発想すれば、多様性を認め合う優しい時代になるのではないかと考えます。

**議長** 市議会では、将来的に市を発展させる世代である若者を社会全体で応援し、若者の持つ活力が循環する社会を生み出したいとの思いから議員提案した「大分市若者応援条例」が、令和5年4月に施行されました。市内の大学などに議員が出向き、若者の声を条例に反映させてきましたが、以前に比べて本会議の傍聴に来る若者が増え、非常に手応えを感じています。

**市長** 市の若手起業家育成施設「オオイトミライベース」を市内中心部に設置し、多くの若者が気軽に集い、意見交換し、挑戦できる場として運用しています。業種や世代の枠を超え